

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	F123310106853	設置等組織名	建築学部（建築学科）
大学名	愛知淑徳大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	愛知	事業計画名	愛知淑徳大学建築学部設置計画

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ 1			○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ 2 前倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請 又は届出	令和6年4月 建築学部建築学科 設置届出予定	令和6年4月 建築学部建築学科 設置届出		
フェーズ 1 後倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
			R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
フェーズ 2	2-①令和6年度 建築学部開設のため構造・材料実験必要機材類設置 2-②令和6年度 建築学部開設のため木質構造実験システム設置 2-③令和6年度 建築学部開設のため工房室木工機械設置 2-④令和6年度 建築学部開設のため環境実験室必要機材類購入 2-⑤令和6年度 建築学部開設のため環境実験室等のエネルギーマネジメントシステム設置 2-⑥令和6年度 建築学部開設のため材料実験室・環境実験室・製図室・ラーニングコモンズ等のAV機器購入 2-⑦令和6年度 建築学部開設のため環境実験室・製図室等に設置する造作家具購入 2-⑧令和6年度 建築学部開設のため材料実験室・共同演習室・研究室等に設置する既製品家具購入 2-⑨令和6年度 建築学部開設のためCAD室機器設置 2-⑩令和6年度 建築学部開設のためのネットワーク・Wi-Fi環境設置工事 2-⑪令和6年度 建築学部開設のための電話設置工事 2-⑫令和6年度 建築学部開設のための電子錠等設置工事 2-⑬令和6年度 建築学部倉庫等作業場新築工事のための設計監理	2-①令和6年度 建築学部開設のため構造・材料実験必要機材類設置 2-②令和6年度 建築学部開設のため木質構造実験システム設置 2-③令和6年度 建築学部開設のため工房室木工機械設置 2-④令和6年度 建築学部開設のため環境実験室必要機材類購入 2-⑤令和6年度 建築学部開設のため環境実験室等のエネルギーマネジメントシステム設置 2-⑥令和6年度 建築学部開設のため材料実験室・環境実験室・製図室・ラーニングコモンズ等のAV機器購入 2-⑦令和6年度 建築学部開設のため環境実験室・製図室等に設置する造作家具購入 2-⑧令和6年度 建築学部開設のため材料実験室・共同演習室・研究室等に設置する既製品家具購入 2-⑨令和6年度 建築学部開設のためCAD室機器設置 2-⑩令和6年度 建築学部開設のためのネットワーク・Wi-Fi環境設置工事 2-⑪令和6年度 建築学部開設のための電話設置工事 2-⑫令和6年度 建築学部開設のための電子錠等設置工事 2-⑬令和6年度 建築学部倉庫等作業場新築工事のための設計監理の取りやめ（令和7年3月28日承認）		
開設 又は定員増	令和7年4月 建築学部建築学科開設予定（入学定員130人、編入学定員－人、工学関係）	令和7年4月 建築学部建築学科開設（入学定員130人、編入学定員－人、工学関係）		
フェーズ 2 後倒し	2-⑭令和6年度から継続 建築学部使用倉庫等作業場の新築工事 2-⑮令和6年度から継続 建築学部使用倉庫等作業場の家具購入	2-⑭令和6年度から継続 建築学部使用倉庫等作業場の新築工事取りやめ（令和7年3月28日承認） 2-⑮令和6年度から継続 建築学部使用倉庫等作業場の家具購入取りやめ（令和7年3月28日承認）	○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ 3	3-①令和8年3月 優秀作品の展覧会及び講演会の開催 3-②令和8年3月 民間企業等と作品制作における講評会等の開催 3-③令和9年3月 優秀作品の展覧会及び講演会の開催 3-④令和9年3月 民間企業等と作品制作における講評会等の開催 3-⑤令和10年3月 優秀作品の展覧会及び講演会の開催 3-⑥令和10年3月 民間企業等と作品制作における講評会等の開催 3-⑦令和11年3月 優秀作品の展覧会及び講演会の開催 3-⑧令和11年3月 民間企業等と作品制作における講評会等の開催		○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は 学部等の廃止	令和7年4月 文学部総合英語学科学生募集停止の予定（入学定員100人、編入学定員－人、文学分野） 令和7年4月 創造表現学部創造表現学科建築・インテリアデザイン専攻学生募集停止の予定（入学定員70人、編入学定員－人、工学分野）	令和7年4月 文学部総合英語学科学生募集停止（入学定員100人、編入学定員－人、文学分野） 令和7年4月 創造表現学部創造表現学科建築・インテリアデザイン専攻学生募集停止（入学定員70人、編入学定員－人、工学分野）		

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	愛知淑徳大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

- 該当しない場合は、チェックしてください。
- i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せた水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑬	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。					
	<table><tr><td>計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック			
計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	愛知淑徳大学
-------------	-------	-----	--------

⑨	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。		
	認定を受けておらず申請する意向もない	■ チェック	

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- ☒ チェック
- a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☒ チェック
- b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ☐ チェック
- c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
企業と連携した科目として、前述の通り、平成16年（2004年）から建築学部基礎となる当該学部・学科（専攻）において、専門教育科目（実習科目）の「デザインワークショップ」を、TOTO・ギャラリー間など連携し、有名建築家と共同で愛知巡回展を本学学生が主体となって、東海地区唯一の開催（実施）をしている。また、大手建設会社である清水建設株式会社と連携し、同授業科目の「建築と経済」や「建築生産システム」において、実社会における建築経済活動に関する授業を過年度から実施している。他にも、一般財団法人愛知県建築住宅センターと連携した同授業科目の「建築法規」も過年度から開講しており、これらは全て建築学部においても開講する予定の授業科目となっている。これらのPBL（＝課題解決型学修）の推進は、ここに例として挙げた授業科目だけに留まらず、新設する建築学部の授業科目においても積極的に取り入れて実施していく計画である。 なお、令和7年度（2025年度）から、新設する建築学部に先立ち、基礎となる学部・学科（専攻）である既設の創造表現学部創造表現学科建築・インテリアデザイン専攻で開講する「総合演習Ⅰa・b」において、“長久手市協働まちづくり活動”と題して長久手市と連携したまちづくりを実施する計画であり、「総合演習Ⅱa・b」においても、長久手市と連携して防災計画を作成する計画や企業と連携し、東海市における市民とコンクリートに親しんでもらう企画を開催する計画も進行中である。	申請時の計画にて記載の通り、建築学部（2025年4月開設）の基礎となる当該学部・学科（専攻）である創造表現学部創造表現学科建築・インテリアデザイン専攻において、2024年度も「デザインワークショップ」（専門教育科目：3年次生・履修対象科目）を開催した。「デザインワークショップ」では、学生が著名な建築家とコラボレーションし、展示会場の設計や施工・運営を行う授業であるが、2024年度は、大阪・北加賀屋を拠点に活動する「ドットアーキテクト」 と連携し、TOTO株式会社が運営する「TOTOギャラリー 間」で開催された展示会「ドットアーキテクト 展POLITICS OF LIVING 生きるための力学」を、愛知巡回展として再構成することを手掛けた。展示会は、2024年8月31日（土）～9月15日（日）の間に開催し、9月7日（土）にはドットアーキテクト代表の冢成俊勝さんによる講演会も実施した。建築学部での開講は2026年度以降となるが、基礎となる学部・学科（専攻）では2025年度も同様な形で科目開講を予定して準備を進めている（https://www.aasa.ac.jp/live/pursuit/009325.html）。 なお、同授業は「展示会場の設計・施工実践教育プログラム～TOTOギャラリー・間巡回展を中心とした建築展を題材として～」として2025年日本建築学会教育賞(教育貢献)に選定された（https://www.aij.or.jp/2025/202Sprize.html）。 上記の他にも各科目において計画に記載した通り、様々な企業と連携した授業を展開した。更に、2024年度は本学が所在する愛知県長久手市の協働まちづくり活動補助金を得て活動した自治体と連携したまちづくりや空間づくり等のゼミ活動（https://www.aasa.ac.jp/live/interaction/009568.html）や「エリアブランディングの研究と空間デザイン」をテーマに産学連携による実践的な学びを取り入れたプロジェクト活動（星が丘テラスを運営する東山遊園株式会社との協働による星ヶ丘周辺エリアブランディング活動）（https://www.aasa.ac.jp/live/pursuit/009443.html）等を実施した。これらの活動は建築学部においても継続して実施していく予定である。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☒ チェック
- a.入学者選抜における科目の見直し
- ☒ チェック
- b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☒ チェック
- c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☐ チェック
- d.社会人学生の実入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- ☐ チェック
- e.留学生の実入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
多様な入学者の確保に向けた取組（理工系分野の受験機会の促進など）としては、令和6年度（2024年度）入試から新たな入試制度・形態として、「大学理念・違いを共に生きる入試」を新設し、本学の理念に共感し、その理念の下で学修する強い意欲を評価する総合型選抜入試を追加し、新たな志願者層の確保を図るなどを実装している。また、建築学部の設置に伴う令和7年度（2025年度）入試からは、学校推薦型選抜である公募制推薦入試の選抜方法（科目）に、「数学」を追加（選択科目の追加）して理工系分野の受験機会の促進を図るとともに、一般選抜である一般入試の選抜方法（科目）の理科において、「物理基礎」科目の追加などを計画している（理工系分野の女子及び男子高校生が受験しやすいうに受験科目の選択肢を増やし、入試科目を拡張し多様な志願者及び入学者を受け入れる計画）。 女子学生の確保（志願者増）に向けた取組としては、本学は元来女子大学として設置された歴史があり、平成7年（1995年）に共学化した沿革を経て今日に至っている。併設校である愛知淑徳中学・高等学校は女子学校（戦前の明治38年（1905年）に愛知県下最初の女子校として創立）であり、本学への進学に向けた取組の全てが女子学生の確保に該当する。その他にも、本学は東海地区の複数の高等学校と高大連携推進に係る提携を行っており、その多くが女子高等学校あるいは女子生徒が多い高等学校である（計7校）。高大連携推進提携校に対しては、毎年2月から3月に掛けて、高大連携推進提携校を卒業した在学生を選出し、後輩の生徒に向けて大学での学生生活の様子を報告する「学生生活報告会」を実施したり、指定校制推薦入試による入学者を対象に毎年3月に入門講座を実施するなど、志願者を募るための施策（大学説明会や個別相談会、出張模擬授業など）の他にも様々な対応を行っている（保護者に対しての説明・相談も一部含む）。 なお、上記以外にも提携も行っていない高等学校に対しても、同様の対応を毎年適宜実施して、東海地区を中心に近隣高等学校との連携を深めている。	入学者選抜については、令和6年度（2024年度）入試から導入している「大学理念・違いを共に生きる入試」（総合型選抜）を『現役生だけでなく既卒者（卒業後5年以内）も出願可能』に変更した（一部の入試を除く）他、申請時の計画にて記載の通り、「公募制推薦入試」（学校推薦型選抜）の出題科目に『数学Ⅱ』を追加し、理工系分野の受験機会を促進した。また、「前期3教科型・前期2教科型」（一般入試）においても計画通り、『物理基礎』を出題科目に追加し、理科の科目が「生物基礎」、「化学基礎」、「物理基礎」の3つから選択可能となった（一部の学科においてのみ「物理基礎」の選択不可）。更に、「グローバル入試」（特別選抜）を新設し、外国人留学生や外国にルーツを持つ生徒を対象とした入試も実施した（当該入試は一部の学部を対象とした入試であるが、外国人留学生対象の入試として、「特別選抜入試」も以前より実施している）。 これらの取組により、建築学部の令和7年度（2025年度）の入試結果は以下の通りとなった。 建築学部建築学科：入学定員130人、志願者数1,341人、受験者数1,303人、合格者数469人、入学者数151人（入学者数には、外国人留学生1人を含む）。 なお、女子学生の確保状況は次の通りである。 建築学部建築学科：入学者数151人（男子：60人、女子：91人〔女子比率：60％〕） また、令和6年度（2024年度）の高大連携推進提携校（計7校）に対しての活動は、例年同様、年数回の定期的な訪問活動以外に、高校内ガイダンス（系統説明や大学説明、入試説明、模擬授業等）や大学見学、そして計画に記載の「学生生活報告会」や「入門講座」を実施しており、受講生からは概ね好評をいただいている。提携校以外の近隣高等学校からも建築学部を新設したことにより、これまで要請が無かった建築関係の分野での模擬授業等の引き合いも発生しており、本学全体として多様な入学者の確保の一助となっている。	

大学名	愛知淑徳大学
-----	--------

1.本事業対象となる学部等の状況

＜合計＞

[illegible]

大学名	愛知淑徳大学
-----	--------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	2150	2150																	
		入学者数	人	2256	2438																	
	その他の学期	入学定員	人	***	***																	
		入学者数	人	***	***																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	2,150	2,150																	
		入学者数(B)	人	2,256	2,438																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.05	1.13																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	8000	8200																	
		編入学定員	人	0	0																	
		在籍者数(D)	人	8605	9005																	
		編入学者数	人	2	2																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.08	1.10																	

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度
改組状況			選定－6年	選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定													
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		115,939	114,155	133,376	76,825	86,686	98,969													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	105,593
本事業による助成金の額(F)	千円	747,196
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	124,273

特記事項

全学部全学科の編入学定員0人とは、若干名を意味している（但し、建築学部建築学科のR7年度以前は編入学試験を実施していないため、編入学定員を設けていない）
--